

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-------------------------------|-----------|----------------|
| ○事業所名 | 放課後等デイサービス（四天王寺悲田院児童発達支援センター） | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2024年 4月 1日 | | ～ 2025年 3月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 36 (回答者数) | 35 |
| ○従業者評価実施期間 | 2024年 4月 1日 | | ～ 2025年 3月 31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 5 (回答者数) | 5 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 4月 8日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|---|
| 1 | ・集団活動における全体での取組み | 出席している児童全員を対象に、一同に集まり、プログラムの中で立てた目標確認をして、他者との交流を図りながら「SSTの視点」を中心に活動を行っている。 | 初めは集団の中に入りづらい児童もいる為、個々に合った役割認識を与え、個別でも参加できるようにしている。 |
| 2 | ・広い設備を利用した活動内容 ・活動プログラムのバリエーションの多さ | グラウンド・ホール・多目的室等、自由遊びにおいても自分が関心をもてる遊びの実現ができやすい環境にある為、自己選択の幅を広げることに繋げている。 また、出席においては、児童自身が月間プログラムの中から選ぶことが出来、選択し実行するまでの流れが明確に理解できるようにもしている。 | 児童からもやりたいプログラムの聞き取りをしており、児童自身からも発信ができる「こども会議」を設定している。 慣れ親しんだ人気のプログラムから、やっていたいと思う内容等、幅広く意見徴収をすることで、児童の「やって楽しい」と思える活動からプログラムを展開できるようにしている。 |
| 3 | ・保護者に寄り添った支援 | 利用時における丁寧な取り組み報告を行うことで、顔の見える関係性づくりを行っている。学校での様子、家庭での様子と放デイでの様子の繋がりが見えるようにすることで、保護者に安心感を持ってもらえるようにしている。 | 保護者学習会の設定や、個別での学校との連携会議を実施している。また、関係機関との連携において、ときには専門職（療法士や心理士）等からの意見徴収をすることで、偏った意見提示とならないように、広い視野で対応できるようにしている。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 利用に関し、キャンセル待ちが発生するケースがあり、全員の利用希望には添えられないことがある。また、中高生の受入れは行っていない為、受入れを希望する声が挙がっている。 | 曜日固定の利用枠としていない為、人気プログラムや授業の早終わりの日に、利用希望が集中してしまう。 また、中高生の受け入れに関しては、定員枠に余力がない点と職員の確保が困難な為、実現は難しい。 | 人気プログラムは実施回数を複数回行ったり、制限が出る場合には、順番に巡る優先度を設ける等して、偏りがでないように配慮しているが、利用登録を制限する必要性もある。 |
| 2 | 送迎に関して、学校や家庭まで迎えに行けない点があり（特定の条件下で利用できる送迎バスはある）、保護者の協力がないと放デイに来ることが難しい場合がある。 | 送迎要因のスタッフが不足している為、迎え便の補充は困難。 自分から出ていくことが難しい方へのアプローチは出来ない。 | すべてのサービスを必要とされる方への提供は難しい点もある為、事業所としてできる範囲での受け入れを行い、送迎を希望される方へは極力送迎サービスができるように調整を行う。 |
| 3 | 放課後児童クラブや児童館との交流など | 過去に学童保育との交流活動を行っていたこともあったが、児童が委縮してしまう傾向もあった為、自己肯定感が下がってしまうことを懸念して活動が控えめになっている。 | 児童や保護者からの目立った要望は聞かないが、地域に出ていく際の他者との交流要素は必要である為、現在成人の福祉サービス事業のご利用者との関わり等を行っている。今後、少人数性での関わり等も検討をしていく。 |